

次もやりたい

年中4歳児 「ドングリって楽しいね♡」

真似してみよう

<同じ素材を使って様々な遊びを展開する姿>

9月18日



もっとたくさんあるところにドングリ拾いに行こう！
(主体的)

9月19日～9月27日



リスを呼ぶためにドングリジュースを作ろう(深い学び)



ドングリの中を割って見よう(深い学び)



ドングリムシ かわいいね(対話的)

遊びの経過・どのような姿が、どのようになって、一歩踏み出したと感じたか？

剣作り、虫捕りブームの後、くま組が主体的に遊ぶことができる素材となりつつあった園庭のドングリやクリ。毎朝張り切って拾っていた。そこで、白井の森にドングリ拾いに出かける。存分に拾ったことで、ドングリに対する愛着がわき、ドングリやドングリムシを観察し、調べたり、集めたりすることと、自分たちがしている遊びに取り入れるようになった。ドングリが自ら使うことができる素材の一つとなった。

<見取った幼児の姿> →有効だった援助

主体的

・園庭のドングリ拾いをしながら「もっとドングリがあるところへ行きたい！」とたくさん拾いたいことを教師に伝える。

→幼児の興味と要求に合わせてすぐに拾いに行けるようにする。

「自分たちがとってきたドングリだから」とドングリを様々な遊びに活用しようとする。

→数がたくさんあるため、いろいろな遊びに使うことができるようにする。「自分たちが拾ってきたんだ」という意識をもてるように、繰り返し学級活動で話題にする。

対話的

・「ドングリムシかわいいね。」と友達がかっこいいと言ったことで、ドングリムシがクラスの宝物になる。

→興味をもっている幼児の言葉を取り上げ、どんなに大切かを学級全体の話題にし続ける。

深い学び

・ドングリの中がどうなっているかを考え、どうしたら割って中を見ることができるとを試してみる姿。

→すりこぎ、石など様々な道具を使ってみるができるように提案する。中からドングリムシが出てきたり、様子が違っていたりしたときは、教師が驚きや嬉しさを声で表現し、周囲の幼児に様子が伝わるようにする。

話合いから

●一歩踏み出すために有効だった援助は？

- 子どもたちの興味と要求に合わせ、**タイミングを逃さずにドングリを拾いに行けた。**
- 個々の幼児がいろいろな方向でドングリに触れる。(拾うのが楽しい！ドングリムシを集める。料理に使う。転がして遊ぶ。)
⇒**教師が共感したり面白がったり**して学級で**話題を共有**できた。
- 子どもの“なんで？”“どうなっているの？”等の興味・疑問を試せるように「〇〇はどう？」と提案する。
⇒教師が驚きや嬉しさを言葉で表現し、**周りの幼児にも様子が伝わるようにした。**
- **家庭に発信**⇒家で一緒に面白がったり調べたりしてくれた。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- 一つのことをとことん突き止める。⇒自分たちはすごい！⇒自信につなげる。
- 不思議心をもった時にすぐに使えるように絵本などを活用していく。
- 一人一人のやりたい！という思いに気付けるように教師が関わっていく。



ドングリの中はどうなっている？
足で踏んでみたり、石を使ってみたりする。



中からアーモンドが出てきた！
ドングリムシを発見！



ドングリジュースを作る。
道具を使ってすりつぶしてみる。



ドングリを転がして遊ぶ。



ドングリムシを見付ける。
ドングリムシが宝物に！！

